

## 佳作 (一般の部)

### 「娘と紡ぐ絵本ライフ」

野坂 真依子

柳田先生、はじめまして。この度は絵本と素敵な再会を果たしたのでお話ししたくお手紙を書きました。

私が久しぶりに絵本と再会したきっかけは昨冬娘が生まれたことです。娘の四ヶ月検診で「赤ちゃんにおすすすめ本ガイド」をいただきました。そこには0歳から絵本を開いてみようとの言葉が。正直まだ早すぎかなあと思いつつも、その言葉に後押しされ、初めてゆいの森を訪れました。

お恥ずかしながら図書館を訪れたのは実に十年

ぶりでした。社会人となりすっかり図書館から遠ざかっていた私は、ビシッと隙間なく並ぶ本の数に圧倒されると共に子供の頃に図書館で感じていたドキドキ感を鮮明に思い出しました。

特に驚いたのが絵本館です。三万冊ものカラフルな絵本に、壁いっぱい絵本が飾られた素敵な読み聞かせのスペース。「これから娘と紡いでいく人生の中で、こんなにも沢山の絵本を読み聞かせてあげることができるんだ!」と心が躍りました。荒川区に住みはじめて二年、こんな素敵なお店を知らなかったなんてもったいないですよ。

そして、そこで柳田先生の「絵本は人生に三度」という言葉を見つけました。私は今、二度目が始まったばかり。自身がまだ折り返し地点にも立っていないことに驚くと共に、人生に幾度も彩りを与

えてくれる絵本の素晴らしさを教えていただき感銘をうけました。

初めて借りた記念の絵本は、三浦太郎さんの「くつついた」です。くつついた！の音に合わせて額をくつつけるとニヤニヤと笑ってくれる娘。(爆笑ではなくニヤツと微笑む感じが可愛いのです)体を触れ合わせながら読むことで、私から娘へ愛情も一緒に届けられているようで嬉しくなります。

今ではすっかり図書館通いが生活の一部となりました。週に二回は訪れて沢山の絵本を借り読み聞かせをしています。(借りた本を図書館通帳に記載して将来娘に見せるのが密かな楽しみです)現在九ヶ月となった娘はとても好奇心旺盛で、絵本のページを自分でめくったり、好きな動物がでてくると興奮してページの上ののったり：と毎日キ

ラキラと目を輝かせながら絵本の世界を自由に楽しんでいきます。

絵本の中で繰り広げられる素敵な絵と言葉。家にいることが多く不自由を感じるご時世ですが、愛する娘と絵本の世界を共有できることで、心はとても豊かに過ごせています。

これから先、どんな絵本に出会い、どんな世界を見ていくのか想像すると大変ワクワクします。柳田先生の著書の中で紹介されているおすすめ絵本も沢山読んでいきたいと思っています。そして、我が子と過ごせるかけがえのない時間を一日一日大切にしていきたいです。

末筆ではございますが、季節の変わり目でございますので、どうかご自愛ください。